

(鹿児島市犬迫町横井9,757番地)

位置と環境

遺跡は鹿児島市の西端、松元町、伊集院町との境界附近にある。一般地方道徳重・横井・鹿児島線が横井の集落を抜けて約800m、伊集院町竹ノ山へ分岐する三叉路の東側に隣接する一段高い畑地帯にある。標高193m南北に細長い小丘陵で東側を凹地、西側を道路によって画されている。

調査の経緯

小丘陵の北側が道路面まで地下げのため削平されたか、その中から縄文早期の土器片や黒曜石の剥片が桑畑光博や上田耕によって採集されたことが遺跡発見の端緒である。残された南側部分も地下げの計画がなされたため、地主と協議を行い鹿児島市教育委員会が調査主体となって、昭和63年に発掘調査を実施した。調査面積は約2,400㎡である。

なお調査地はその後削平され、さらに道路も拡幅され旧地形は全く失われている。調査地点を確認することは容易なことではない。

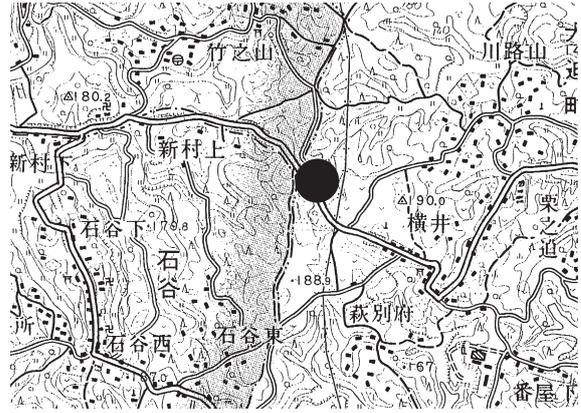
遺構と遺物

アカホヤ火山灰層をはさむ縄文層はほとんど消滅しており前平式、吉田式、石坂式土器などと磨石・石皿など約70点を確認したのみであった。

本遺跡では約11,500年前といわれる薩摩火山灰層が厚さ30～40cmと厚く、下層を完全に密閉した状態で堆積しており、上層から下位への遺物の混入は全く考えられなかった。薩摩火山灰層の直下の黒褐色粘質ローム層から黒曜石を主とする剥片類やチップ、



写真1 横井竹ノ山遺跡遠景(南から)昭和63年6月



第1図 横井竹ノ山遺跡の位置

安山岩や砂岩の礫類など総数1,777点が確認された。

これらの中で主なものは次の通りである。土器片23点、石鏃25点、細石刃核20点、細石刃核ブランク3点、スポール2点、細石刃88点、楔形石器4点、彫刻刀形石器1点、石核2点、剥片類66点、礫石器16点、台石1点である。

土器は細片だけの出土であり、完形あるいは径のわかるものはみられない。隆帯状のふくらみをもつものが1例みられる。(79)。石鏃は製作・形態とも縄文期のものと明確な区別は出来ない。細石刃核は調整剥離が顕著に認められない。細石刃核ブランクの中に、福井型とされるものが1個みられる(73)。

石材は鹿児島市吉野町竜ヶ水三船原産と鹿児島県薩摩郡樋脇町上牛鼻産、それに西北九州産に類似するものがみられた。

特徴

厚い薩摩火山灰層直下から、旧石器時代の細石刃、細石刃核と、縄文時代の所産といわれる土器と石鏃が明確に共伴したことは、両時代の区別の意味や文化の継続と断絶など様々な問題点を提起し、縄文時代草創期の究明の端緒となった。

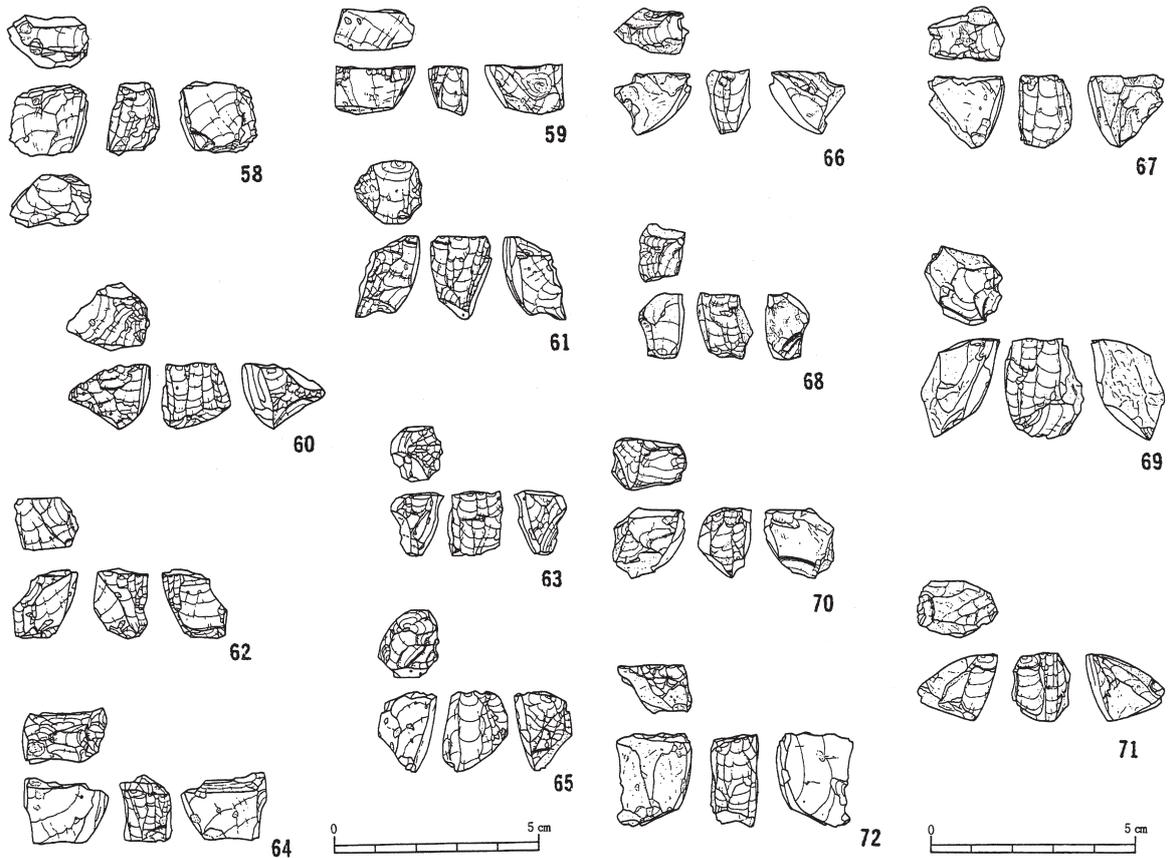
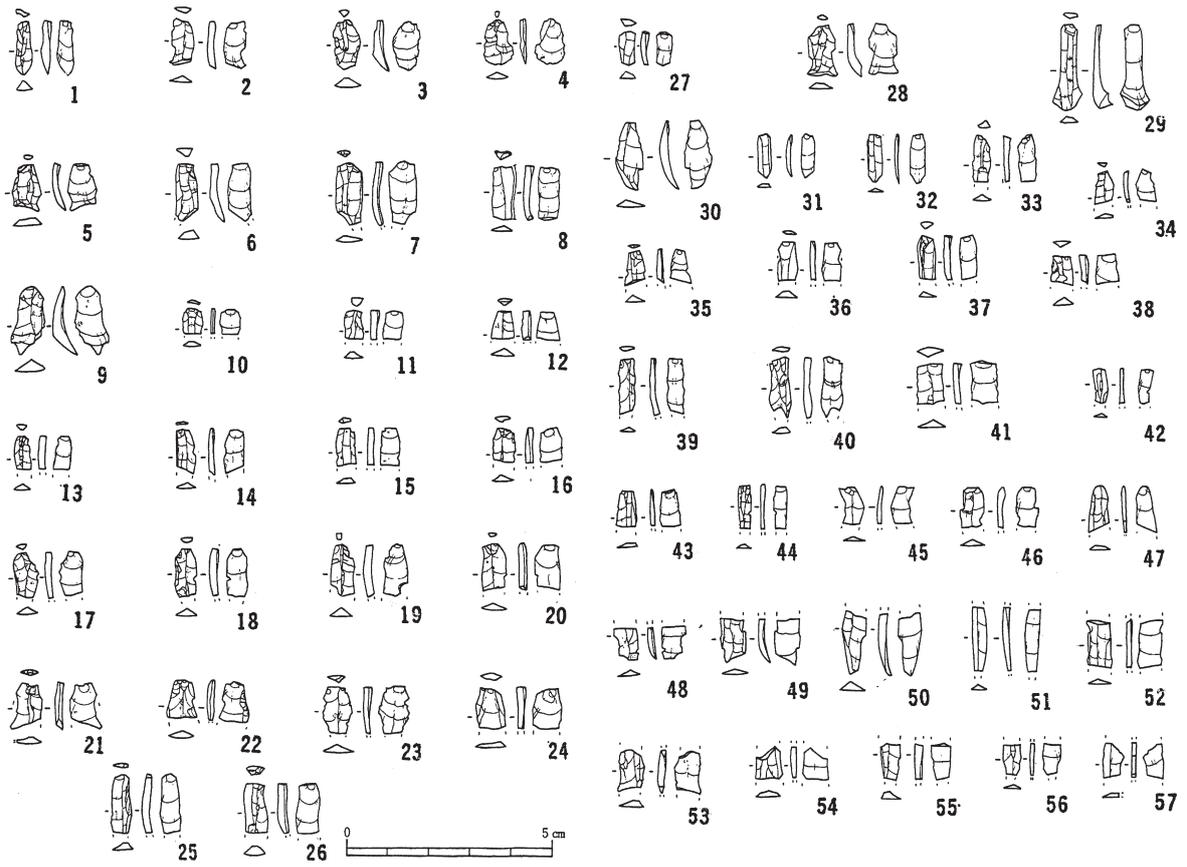
資料の所在

出土遺物や調査資料は、鹿児島市立ふるさと考古歴史館に保管されている。出土品の一部は展示されている。

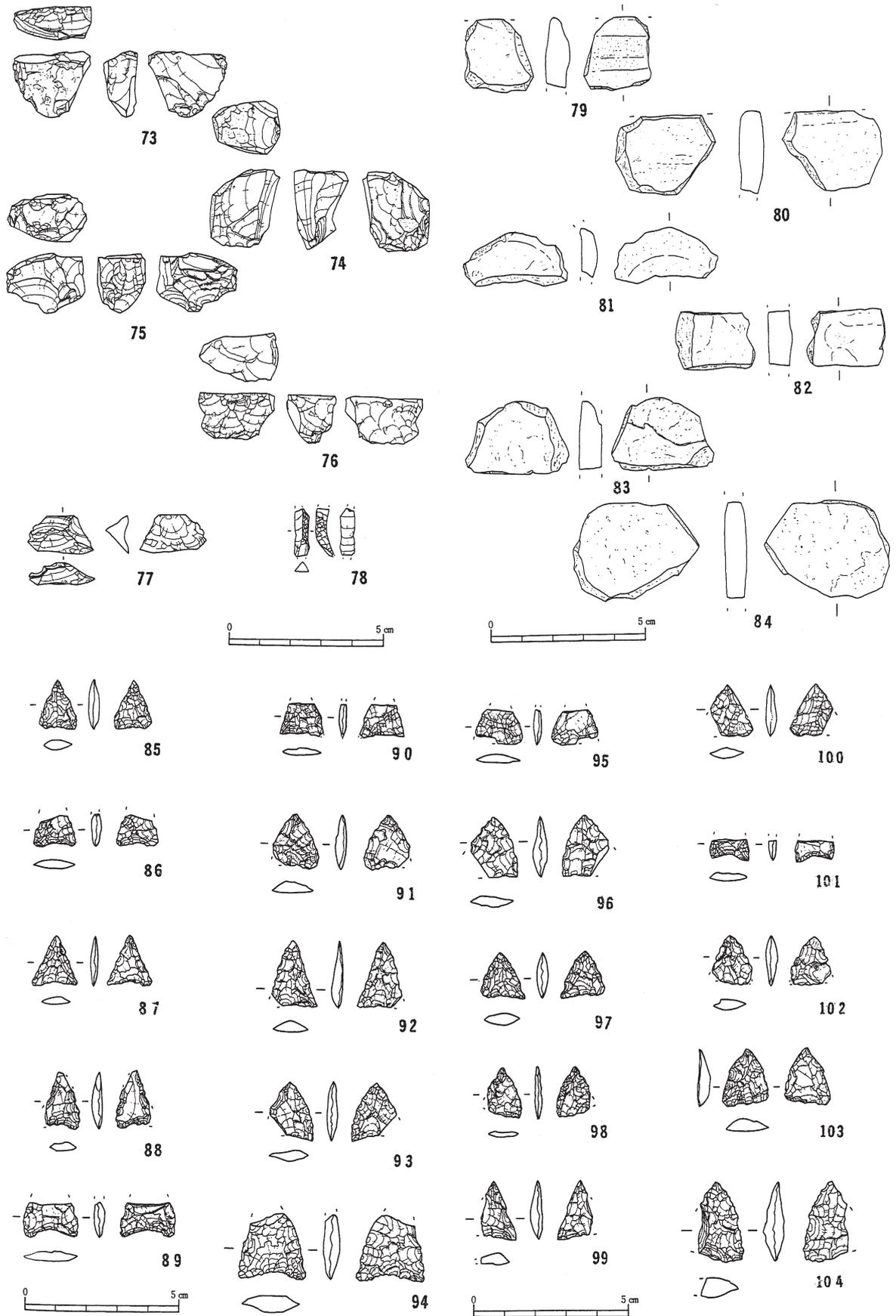
参考文献

鹿児島市教育委員会1990「横井竹ノ山遺跡」『鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書』10

(出口 浩)



第2図 出土遺物 細石刃 細石刃核 (1~72)



第3図 出土遺物 細石刃核 土器 石鏃 (73~104)